

学連関東支部 安全対策講習会 報告書

学連安全対策委員長

青山学院大学 3年 富田 拓人

1. 概要

2016年10月22日に、関東学連に加盟する11の大学の安全対策委員と安全対策委員長である私の12名で安全対策講習会を実施した。午前中は逗子市消防本部において心肺蘇生法やAEDの使い方を中心とした普通救命講習を受講した。午後は逗子文化プラザ市民交流センターの会議室にてミーティングを実施した。ミーティングでは各大学で実践している安全対策の方法について共有し、実際に起こったヒヤットとした事例からできうる安全対策、反省点を考えた。大学によって安全対策への意識にばらつきがあったため、安全対策への意識が高い大学のやり方を共有できたという点で有意義なものになった。

2. 普通救命講習

逗子消防の方に心肺蘇生の方法、AEDの取り扱い方、救命に関する応急処置をレクチャーしていただいた。心肺蘇生法の講習では、実際に人形を用いて胸骨圧迫や人工呼吸、AEDによる電気ショックのやり方を体験した。受講者全員が1週間後をめぐり逗子消防本部より修了証をいただける予定になっている。

3. ミーティング ~各大学で対策していること

- リグ・ボードの艇の後ろにボードのみの艇をレスキューシートで繋いだレスキュー艇を練習の際に必ず出す。下級生が流されたらすぐに上級生が乗り移る。
- 海上に携帯電話を持っていく。
- 吹きの時、下級生は2人1組の交代で練習する。浜で最低一人は見て、レスキューの準備をしておく。
- 練習の班を上級生と下級生のバランスを考えて組む。(上級生：下級生=1：1)
- 荒天の場合の出艇基準を設ける。(視界不良、雪、雷など)

4. ミーティング ~ヒヤットと事例と考えられる対策

- オフショアで吹いていて流されてしまった。ウィンドで1艇がレスキューに向かったが、海上解体をせずにレスキューシートで2艇を結び引っ張ったが、なかなか上らなかった。

- 1艇で引っ張る場合は海上解体を先にする。自分の能力を判断する。
- 海上で貧血になり、ボードの上で倒れてしまった。一緒に練習していた人は着岸したと思ひ込み、周囲を探すことはしなかった。セイルは上がりず、そのまま浜に流され、ライフセイバーにレスキューされた。
 - 体調が悪い際には出艇しない。一緒に出艇している人は必ず周囲に目を配る。
- オンショア強風時に沈をして、道具と離れてしまった。道具だけ先に浜に打ち上がったが、本人は約40分間泳ぎ続け、自力で着岸した。ライフジャケットを着用しておらず、防寒対策も甘かった。
 - 一人での出艇はなるべく避ける。ライフジャケットの着用と、長時間海中に落ちたことを想定した防寒対策をする。
- 体調不良で海上で急に倒れた。急だったので気づいた人が少なかった。
 - 体調不良の際には出艇しない。一緒に練習している人は周囲に目を配る。出艇前に体調の確認をする。
- 吹き予報だが攻めたセッティングをして、吹き上がった際に下級生が流され、レスキューされた。
 - 吹き予報ならばセッティングは攻めない。下級生は出艇前にセッティングを上級生に見てもらう。
- 泳げない1年生がレース中に沈をして道具と離れてしまった。笛を吹いたが気づいてもらえなかった。
 - 運営船や選手が流れている人や道具を見つけたら素早く対応する。(今年度から笛の所持を義務にしたが効果はあるのか?)
- リグトラブルを起こした人が、しばらく放置して練習をした。
 - すぐレスキューをする。出艇前に道具をチェックする。
- 吹き上がった際に1年生が勝手に浜に帰着していて、上級生は気づかなかった。しばらく海上を捜索した。
 - 上級生は練習の際、1年生から目を離さない。帰着の際はできうる限り近くにいる人に帰着する旨を伝えてから帰着する。
- 1年生がテトラポットの風上で沈を繰り返していた。結局乗れて、テトラポットから離れることができたためレスキュー事案にはならなかったが危険であった。
 - レスキューができないことに加え危険なため、テトラポットや堤防、岩場などは近づかないようにする。
- 日が暮れ始めたくらいの時刻で流されてしまった。
 - 最終帰着時間には必ず着岸する。吹き上がる予報などコンディションに不安が

2016.10.22 学連関東支部 安全対策講習会

ある場合は最終帰着時間よりも前に、早めに浜に寄せる。もしくは帰着する。

- 1年生2人を1人の上級生が見ていたが2人とも流されてしまい、レスキューがままならず、結局船にレスキューされた。
→上級生の人数が1年生の人数よりも少ない状況下では練習をしない。複数の上級生がついていつでもレスキューできる体制を整える。

5. ミーティング ~他にもできる対策

- シートやカッターなどをライフジャケットに入れておくトリグトラブルの際に便利である。
- ジョイントベースやアップホールラインなどは予備を持って出艇すると万一の際でも対応可能。
- 艇庫やショップとの連携を取り、緊急時の対応を協議しておく。
- 地震や災害の際の避難経路を確認しておく。

最終帰着時間を守っていない大学や、曖昧なゲレンデもあったため、関東学連で統一の最終帰着時間を以下のように設定した。

関東学連 最終帰着時間

1月	2月	3月	4月	5月	6月
16:00	16:00	17:00	17:00	18:00	18:00

7月	8月	9月	10月	11月	12月
18:00	18:00	17:00	16:30	16:00	16:00

6. 終わりに

各大学の委員に本講習の内容を共有するよう指示した。このような講習だけでなく、しっかり日頃から各チーム内でも安全対策に関するミーティングを行い、海上でのルールや緊急時の対応を明確にすることが重要だ。講習をこれまで実施していなかったこともあるのか、安全対策への意識が低い大学も見られたため、今回の講習を機に意識を高めてもらいたい。

学生連盟関東地区安全講習会の様子



逗子市消防本部の皆様ご協力ありがとうございました。